

俳句

瘦蛙まけるな一茶是にあり

小林一茶

雀の子そこのけそこのけ御馬が通る

やれ打つな蠅が手をすり足をすり

松尾芭蕉

行春や鳥啼魚の目は泪

夏草や兵どもが夢の跡

閑かさや岩にしみ入る蝉の声

旅に病んで夢は枯れ野を駆けめぐる

与謝蕪村

春の海終日のたりのたり哉

菜の花や月は東に日は西に

さみだれや大河を前に家二軒

正岡子規

柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺

いくたびも雪の深さを尋ねけり

疲一斗糸瓜の水も間に合わず

締め切り 一二月二〇日